

栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

中学校・英語科 vol.2

平成 17 年 9 月 栃木県総合教育センター

平成 16 年度教育課程実施状況調査(中学校第 2 学年段階の内容)のペーパーテスト調査結果からみえた次の課題について、今回は、「書くこと」の力を高める指導のポイントを示します。

ペーパーテスト調査結果からみえた課題

- ・「書くこと」(21 問)について、本県の通過率の平均(44.9%)は、全国の通過率の平均(47.8%)をやや下回っています。本県の通過率が、全国の通過率を上回っている問題数は 6 問です。
- ・出題のねらいごとにみると、「与えられた英語で語順正しく書く」問題では、全国とほぼ同程度ですが、「書く内容を考えて英語で書く」問題では、約 5%下回っています。

英文を書く力は、一朝一夕には身に付くものではありません。生徒が「英語で書く」ことに前向きに取り組めるような活動を工夫し、英文を書く機会をできるだけ多く与えるようにしましょう。

「話すこと」との関連を図り、「書くこと」の活動を工夫しましょう

1 英文を書く活動を意図的、継続的に授業に取り入れましょう

「ペーパーテスト調査結果からみえた課題」の中で述べた「書く内容を考えて書く」問題とは、与えられたトピックについて複数の英文を書く問題です。まとまりのある英文を書くためには、文法事項や語彙等を適切に選択し運用できる力とともに、自分の考えや気持ちなどを筋道立てて分かりやすく表現する力も必要となります。そのような力を生徒に身に付けさせるには、日常生活の様々なことについて「英語で書く」機会を与え、できるだけ多く英文を書かせるようにすることが大切です。



英文を書くのは難しい。どうすれば、
書けるようになるのかな。



授業で英文を書くことが多くなったから、
前よりだいぶ書けるようになってきたぞ！



始めに、「英語で書く」とはどういうことか、確認しておきましょう。指導要領には「英語」の「書くこと」について、次のような目標が示されています。

英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

この目標のポイントは、「自分の考えなどを書くことができるようにする」ことであり、単に日本語を英語に書き換えることができればよい、ということではありません。もちろん、指導のある段階では日本語から英語への書き換え練習などを行うこともあると思いますが、それができることが最終的な目標ではありません。



生徒が自分の考えや気持ちなどを、英語で書くことができるようにすることが大切ね。

次に示すのは、今回の教育課程実施状況調査（ペーパーテスト調査）で出題された「書く内容を考えて書く」問題の概要と結果です。これらの問題では、始めの文や文頭の語句が示されており、それに続けて3文以上の英文を書くことが求められています。

<問題冊子A>

場 面：「外国人講師に伝える」

トピック：「夏休みをどのように過ごしたか」

始めの文： I enjoyed summer vacation.



結果	本県	通過率 22.9%	無解答率 30.6%	全国	通過率 27.3%
----	----	-----------	------------	----	-----------

<問題冊子B>

場 面：「交換留学生として行ったイギリスの学校で」

トピック：「自己紹介」

始めの文： Hello. My name is....



結果	本県	通過率 43.9%	無解答率 11.7%	全国	通過率 48.0%
----	----	-----------	------------	----	-----------

<問題冊子C>

場 面：「スピーチの原稿を書く」

トピック：「私の好きな季節」

始めの文： I'm going to talk about my favorite season.



結果	本県	通過率 19.2%	無解答率 37.6%	全国	通過率 26.0%
----	----	-----------	------------	----	-----------

結果について、「自己紹介」と他の二つのトピックを比較すると、「自己紹介」の通過率は、他の二つの通過率より高く、約2倍となっています。また、無解答率は低く、約3分の1となっています。この要因として、自己紹介は授業でよく行われており、生徒は自己紹介文を考えたり書いたりすることに慣れている、ということが推測できます。「自己紹介」の通過率も高いとはいえませんが、慣れていれば生徒は取り組みやすいといえるのではないのでしょうか。



「自己紹介」は、授業で何度もやったから、書きやすいわ。

そのことから、生徒の「書く力」を高めるためには、生徒の考えや気持ちなどを書く活動を授業に意図的、継続的に位置付け、「英語で書く」経験を積ませることが必要であるといえます。そうすることで、生徒は既習事項を適切に用いながら、分かりやすく自分の考えなどを書く力を身に付けていきます。

それでは、どのように「書く活動」を取り入れていけばよいのでしょうか。いきなりトピックを与えて英文を書かせることは、生徒にとっては負担が大きいものです。特に、書くことに慣れていない生徒は、始めから書く意欲を失ってしまうかもしれません。



いきなり「英文を書きなさい。」と言われても・・・。

そこで、「話すこと」との関連を図って、「書くこと」の活動を行ってみてはいかがでしょうか。

2 話したことを英語で書けるよう、活動を工夫しましょう

これから紹介するのは、日頃の授業に生かせる「話すこと」との関連を図った「書くこと」の活動例です。話したことを英語で書かせる、また、英文をどのように書いたらよいか示す、などの工夫をすることにより、生徒の「書くこと」への負担感を減らし、前向きに取り組めるようにしています。

ただし、書く内容や量などについては、活動例をみても分かるように、指導する学年や時期によって異なりますので、生徒の実態等を考慮しながら指導する必要があります。

また、通常、授業では「言語材料の理解や練習のための活動」の後、「コミュニケーションを図る活動」を行いますが、紙面の都合上、ここでは「コミュニケーションを図る活動」の活動例についてのみ示しています。

話したことを書かせることで、生徒にとって取り組みやすい活動にしよう。

英文をどのように書いたらよいか示すことで、生徒の「書くこと」への負担感を減らそう。



活動例1 : 書く英文を対話例に示しておく

この活動例は、「書く活動」の際、生徒が何を書いたらよいか分かるよう、書く英文を対話例に示しておくものです。ここでの書く活動は copying に近いものとなりますが、例えば1年生の初期から「話すこと」との関連を図りながら、書く活動を取り入れることによって、英文を書くことに慣れさせていくことができます。

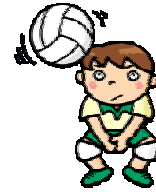
なお、「話す活動」では、相手の質問に対して Yes, ~. あるいは No, ~. の文だけではなく、さらに1~2文付け加えて自分の気持ちなどを表現させます。

言語材料

「Are you ~? の疑問文とその答え方」

基本文

Are you a sports fan? Yes, I am. / No, I'm not.



活動の流れ

ア 「言語材料 (Are you ~?) の理解や練習のための活動」を十分に行う。

イ 「コミュニケーションを図る活動」で、自分が好きなことについて伝え合う。

ウ ペアワークで話したことを書く。

指導上の留意点

- ・下記のような「対話例」を生徒に示し、対話させる。
- ・「書く活動」のとき、どの文を書けばよいか分かるように、「対話例」の3文に ~ の番号を付けておく。
- ・活動前に教師がモデルを示し、生徒に対話の流れをつかませる。
- ・対話に必要なと思われる語彙（未習語も含む）を次ページのようなリストにして示す。
- ・ペアワークに入る前に、語彙や対話文の練習を十分に行う。

対話例

A: Hi, B.

B: Hi, A.

A: I'm a sports (music) fan.

Are you a sports (music) fan too?

B: Yes, I am.

No, I'm not. I'm a music (sports) fan.

I'm a () fan.

I'm a () fan.

A: Me too. / I see.

参考語彙

< sports > baseball / soccer / basketball / tennis / table tennis / volleyball

< music > pop music / rock music / hip-hop / classical music / movie soundtrack

生徒が書いた文

Are you a sports fan too?
No, I'm not. I'm a music fan.
I'm a classical music fan.



活動例 2 : まとめ方の例を示しておく

この活動例は、「書く活動」の際、どのようにまとめて書けばよいか分かるよう、まとめ方の例を示しておくものです。そうすることで、話したことをつながりのよい英文として書くことができます。

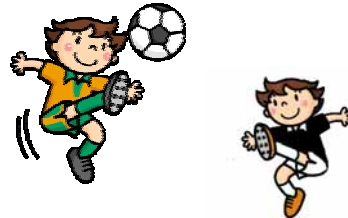
なお、「話す活動」で用いる対話例には空欄を多くし、生徒の自己表現の度合いが高まるようにしています。ここでのポイントは、相手の質問や応答に応じて、生徒に自分の考えや気持ちを述べさせることです。

言語材料

「be going to ~ の文」

基本文

I'm going to play soccer tomorrow.



活動の流れ

ア 「言語材料 (be going to ~) の理解や練習のための活動」を十分に行う。

イ 「コミュニケーションを図る活動」で、次の日曜日の予定などについて伝え合う。

ウ ペアワークで話したことを書いてまとめる。

指導上の留意点

- ・次ページのような「対話例」を生徒に示し、対話させる。
- ・ワークシートには「対話例」とともに、「書く活動」のとき、生徒がどのように文をまとめればよいか分かるように、「まとめ方の例」を示しておく。
- ・活動前に教師がモデルを示し、生徒に対話の流れをつかませる。その際、「まとめ方の例」の内容を踏まえて、モデルを示すようにする。
- ・ペアワークに入る前に、対話文の練習を十分に行う。

対話例

A: Hi, B.

B: Hi, A.

A: What are you going to do next Sunday?

B: Well, I'm going to _____.

A: Oh, you're going to _____.

_____?

B: _____.

A: _____?

B: _____.

A: I see.

B: How about you, A?

What are you going to do next Sunday?

....

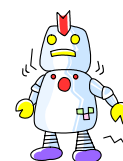
まとめ方の例

Next Sunday I'm going to practice soccer at the Green Stadium. My position is a forward. I like Masashi Oguro on GAMBA OSAKA. He is my superstar.

生徒が書いた文

Next Sunday I'm going to go to see a movie with my brother. We're going to see "Star Wars Episode _____."

I like "Star Wars" very much. My favorite character is R2-D2.



以上、二つの活動例を示してきましたが、他にも様々な活動が考えられます。生徒が書くことに慣れてきたら、例を示さず生徒自身に考えさせて書かせたり、自分の考えや気持ちだけではなく話をした相手の考えや気持ちを書かせたり、グループで話し合ったことをまとめさせたりすることもできます。先生方が、様々な「書くこと」の指導を工夫することで、生徒の「書く力」を一層高めていっていただきたいと思います。